

電 氣 學 會 々 報 [16]

昭和 24 年度事務及事業報告

昭和 24 年 4 月から 25 年 3 月に至る間に於て行つた事務及び事業の概要を報告する。

1. 會 員

正准員の異動 は次表の如くである。

	正 員	准 員	合 計
再 登 録	180	0	180
入 會	364	364	728
轉 出 入 (+)	194	(-)194	0
退 會	279	61	340
死 亡	67	6	73
差 引 増	392	103	495

事業維持員の異動 は次表の如くである。

	社 數	口 數
入 會	17	21
退 會	30	31
差 引 減	13	10

期末會員數 25 年 3 月末現在の會員數は次表の如くで、前期末に比し 481 名を増加した。

	24 年 3 月末	25 年 3 月末	増 減
名譽員	9	8	(-) 1
正 員	9,548	9,940	(+)392
賛助員	6	6	0
維持員	348	335	(-) 13
准 員	1,692	1,795	(+)103
合 計	11,603	12,084	(+)481

正員中「特例會費會員」は 267 名、「終身會員」は 695 名である。

2. 會 合 數

本期間の會合數は 513 回で、前期間 410 回に比し 103 回を増加した。

總 會	1 回
役 員 會	4 回
理 事 會	12 回
編 修 委 員 會	14 回
賞 金 委 員 會	2 回

技 術 委 員 會	118 回
研 究 委 員 會	37 回
電 氣 規 格 調 査 會	196 回
電 氣 技 術 普 及 會	34 回
通 信 教 育 會	59 回
ハ ン ド ブ ッ ク 委 員 會	36 回
合 計	513 回

3. 規 程 の 改 正

(1) 通信教育會規則の改正 (24 年 6 月, 委員 20 名を 50 名に増加, 常務理事 2 名を専務理事及び常務理事各 1 名に改めた)

(2) 編修委員會規程の改正 (25 年 3 月, 従來は編修委員 40 名以内, 學界時報委員 60 名以内一中 36 名は編修委員の兼務一特許紹介委員若干名と外に編修地方委員若干名であつたのを, 編修委員 70 名以内一中 30 名以内は地方在住一に改めた)

(3) 電氣學會連絡幹事内規の制定 (24 年 11 月)

4. 功 績 の 表 彰

24 年 4 月通常總會に於て第 24 回「淺野博士獎學祝金」を駒形作次君, 第 8 回「大同電力記念賞金」を北川一榮君に贈呈した。

又 23 年以降中止となつていた「電氣學術振興賞」を復活することとし, 受賞候補者の銓衡を進めた。

4. 講 演 會 ・ 講 習 會 ・ 見 學 會

支部大會 下記支部に於て電氣通信學會及び照明學會支部と連合又は單獨で支部大會を開いた。

支 部	日 數	講 演 數	
		特 別	一 般
東 京	2	0	230
同 關	3	3	262
西 關	2	3	147
九 州	1	2	39
東 北	3	1	57

東 海	2	0	74
北 海 道	1	0	31
合 計	14	9	840

講演會 本期間本部及び支部で開いた講演會, 講習會, 見學會の數は合計 78 回で前期 73 回に比し 5 回を増加した。これを支部別に示すと次の如くである。

	大 會	講 演 會	講 習 會	見 學 會	合 計
本 部	0	1	0	0	1
東 京 支 部	2	7	1	1	11
關 西 "	1	6	2	2	11
九 州 "	1	3	0	2	6
東 北 "	1	9	0	1	11
東 海 "	1	9	0	1	11
中 國 "	0	9	0	0	9
北 海 道 "	1	3	0	1	5
北 陸 "	0	3	0	3	6
四 國 "	0	1	1	2	4
茨 城 "	0	2	0	1	3
合 計	7	53	4	14	78

又昭和 18 年大阪で開いた第 23 回連合大會以來中止されていた全國大會を復活する事としその準備を進めた。

6. 雜 誌 及 論 文 集

雜 誌 本期間は下記 13 冊を發行した。

卷 號	冊	發 行 年 月	本 文 頁 數
69-724	24 年 2	24. 4	30
725	3	6	36
726	4	5	36
727	5	6	28
728	6	7	38
729	7	8	28
730	8	9	34
731	9	10	30
732	10	11	32
733	11	12	50
734	12	12	48
70-735	25 年 1	2	41
736	2	3	38

發行年月はその雜誌の發行された實際の年月を示した。

以上 13 冊の総頁数は 469 頁で前期 362 頁(12冊)に比し 107 頁を増加した。又 1 冊當の頁数は 36 頁で前期 30 頁に比し 6 頁を増加した。

種類別の頁数を示すと次の如くである。

	本期頁	前期頁	増	減
會長挨拶	2	1	(+)	1
説 苑	2	2		0
資料論文	247	207	(+)	40
特集論文	0	41	(-)	41
講 演	15	11	(+)	4
調査報告	70	28	(+)	42
技術綜説	65	39	(+)	26
學界時報	40	33	(+)	7
寄 書	1	0	(+)	1
會 報	17	0	(+)	17
製品紹介	10	0	(+)	10
合 計	469	362	(+)	107

表紙の美化と廣告の改善 廣告の改善をはかるため、10月に「廣告改善委員會」を設置し、廣告主側からも委員を委嘱し、種々協議を進めた。その結果 24 年 11 冊から「製品紹介」を復活し又 12 冊から表紙の二、三、四、及び前付廣告はすべて 1 頁廣告とすることとした。又かねて考えられていた表紙の美化についても協議した結果アート紙二色刷とし表紙の一に寫眞廣告を掲載、25 年 1 冊から實施した。

論文集 前期の決定にもとづき 24 年 8 月第 1 號、12 月に第 2 號を發行した。論文集は季刊で、本期 4 冊を發行する豫定であつたが、2 冊の發行に止まつたことは遺憾であつた。

7. 出 版

電氣工學年報昭和 25 年版 編集を了し、目下印刷進行中である。

電氣工學ハンドブック (電氣工學ポケットブックを改稱) 前年來原稿の執筆が進められているが、近く原稿が出揃う見込である。

電氣學會名簿 終戦以來の懸案であつた名簿を昭和 24 年 10 月に出版し

た。

電氣工學ポケットブック・ジュニア版
本會編集、オーム社發行の本冊は豫期以上の好成绩を以て豫約募集を了し、近く出版される。

電氣技術綜説 前期に引續き電氣書院から下記 3 集を發行、これを以て昭和 16 年～20 年本會雜誌に連載された技術綜説全篇の部門別集成が完了した。

第 5 集 電氣通信 (24 年 4 月)

第 6 集 電氣材料 (10 月)

第 7 集 電燈・電熱・電氣應用 (7 月)

電氣標準規格 前期に引續き電氣書院から下記 12 種を出版した。

(1) 衝擊電壓試験 (JEC-106) (24 年 4 月)

(2) 衝擊電壓測定法 (＃107) (＃)

(3) 變壓器衝擊電壓試験 (＃110) (＃)

(4) 電氣機器一般 (＃86) (再版, 5 月)

(5) 變壓器, 誘導電壓調整器及びリアクトル (＃36) (再版, 5 月)

(6) 抗氣防爆型電氣機器 (＃93) (再版, 6 月)

(7) 積算無効電力計 (＃81) (7 月)

(8) 水車 (＃117) (9 月)

(9) 標準電壓 (＃34) (再版, 11 月)

(10) 蒸気タービン (＃62) (再版, 12 月)

(11) 計器用變成器 (＃118) (24 年 2 月)

(12) 指示電氣計器 (＃119) (3 月)

標準電氣用語増補改訂版 24 年 12 月コロナ社から出版した。

8. 研究費補助

本期「岩垂資金」から次の通り支出した。

(1) 妨害電波研究費—妨害電波研究委員會 (5,000 圓)

(2) 送電網異常現象研究費—送電網異常現象研究委員會 (5,000 圓)

(3) 電蝕防止研究費—電蝕防止研

究委員會 (10,000 圓)

9. 電氣規格

電氣規格調査會本期間の會合数は 196 回で前期 114 回に比し 82 回を増加した。

新設委員會 本期間次記 18 委員會を設置した。

(1) 電氣一般常置委員會

(24 年 4 月)

(2) 電氣計器 " (")

(3) 電氣機器 " (")

(4) 原 動 機 " (")

(5) 送 配 電 " (")

(6) 電氣用品 " (")

(7) 電氣材料 " (")

(8) 電 線 " (")

(9) 輸送用電氣設備 " (")

(10) 電氣機器溫度標準特別委員會

(6 月)

(11) 抵抗材料 " (7 月)

(12) 回 路 計 " (7 月)

(13) 配電盤用計器寸法 " (7 月)

(14) 避 雷 器 " (12 月)

(15) 鐵 塔 " (25 年 2 月)

(16) 套 管 " (2 月)

(17) 指示電氣計器 " (3 月)

(18) 電力線搬送装置 " (3 月)

委員會の改稱 常置委員會の設置に伴い、「電氣機器標準調査委員會」を『變壓器標準特別委員會』『電線標準調査委員會』を『防蝕ケーブル標準特別委員會』と改稱した。

委員會の解散 改組又は調査終了の爲め下記委員會を解散した。

電氣計器標準調査委員會

(24 年 4 月, 改組)

電氣單位 " (4 月, 調査終了)

套 管 " (5 月, 改 組)

抵抗材料 " (25 年 3 月, 調査終了)

回 路 計 " (")

配電盤用計器寸法 " (")

諮問回答 日本學術會議から「度量衡法に規定すべき單位」に關し諮問があつたので意見を回答した。(7 月)

規格の制定及び改訂 本期間に於て制定又は改訂した規格は次の 30 種である。中 (5) 以外はどれも日本工業標準(JES を JIS と改稱された)の原案として報告したものである。

- (1) ブラシ・プレート(24年4月)
- (2) 金属箱開閉器(改訂)(〃)
- (3) ハトメ(配線用) (〃)
- (4) ケッチ・ホルダ (〃)
- (5) 指示電気計器(JEC119)(6月)
- (6) 一般電気用シンボル(〃)
- (7) カバ付ナイフスイッチ(改訂)(〃)
- (8) マンガニン線及び板(7月)
- (9) 金属抵抗材料固有抵抗試験法(〃)
- (10) 同 熱起電力試験法(〃)
- (11) 同 温度係数試験法(〃)
- (12) 電気単位の記號(改訂)(11月)
- (13) 珪素鋼帯 (〃)
- (14) 銅, ニッケル線, 帯および板(12月)
- (15) 螢光放電管 (25年1月)
- (16) 電球(一般照明用)(改訂)(〃)
- (17) 回路計 (2月)
- (18) 表示燈用電球 (〃)
- (19) 開放ナイフ・スイッチ(改訂)(〃)
- (20) プラグおよびカットアウト(改訂)(〃)

又「斷路器の開閉能力について」を電學誌 24 年 12 冊に發表した。

廢止規格 下記規格を廢止した。

- (1) 一般電気用圖形記號(JEC-89-1943) JIS となつたため。
- (2) 指示電気計器(JEC-47) 改訂され JEC-119 となつたため。

規格出版 上記出版の部に記載の如く 12 種を電気書院から 又標準電気用語増補改訂版をコロナ社から出版した。

10. 調査及研究

本期間技術委員會の部門, 専門, 特別各委員會の會合數は 118 回で前期 172 回に比し 54 回を減じた。

解散委員會 本期間下記委員會を解

散した。

- (1) 濕氣対策専門委員會 (24年6月)
- (2) 制 御 〃 (10月)
- (3) 搬送周波測定〃 (〃)
- (4) 絶縁材料試験法〃 (〃)
- (5) 絶縁協調特別委員會 (〃)
- (6) 高周波測定器専門委員會 (11月)
- (7) 高周波電流電壓測定〃(〃)

調査完了事項 本期間調査を完了し報告のあつたものは下記 12 件である。尚この外に各部門とも電気工學年報の編集を行つた。

- (1) 石灰窒素工業に於ける電力原單位(電學誌 24 年 5 冊に發表)
- (2) 主として送配電系統の絶縁協調(〃 25 年 1 冊〃)
- (3) 計器用變成器の衝擊絶縁耐力について(〃 25 年 1 冊〃)
- (4) 新制大學基礎學課程への資料(〃 25 年 2 冊〃)
- (5) 電気材料に關する技術的研究又は調査を目的とする諸會合(印刷物配布)
- (6) 電気鐵道車輛故障対策(第一部車輛一般, 第二部主電動機)(〃)
- (7) 電気測定法改正案に對する意見(本會へ提出)
- (8) 珪素鋼帯規格原案(電気規格調査會へ提出)
- (9) 變壓器短絡時の機械的強度(近く發表)
- (10) インピーダンスによる資料及び損失(〃)
- (11) 新北陸幹線用變壓器の無負荷電流について(〃)
- (12) 低温焼鈍による珪素鋼帯の工業的製造に關する研究(〃)

調査中の主な事項 は次の如くである。

- (1) 高周波電壓電流標準に關する豫備調査(測定部門委員會)
- (2) 繼電器用變壓器に關する豫備調査(〃)
- (3) 水銀整流器の實態調査(放電

裝置〃)

- (4) 單極水銀整流器の調査(〃)
- (5) 周波數變換及び逆變換の調査(〃)
- (6) 板封じ真空管の試作及び應用研究(真空管〃)
- (7) 電気鐵道車輛故障対策(第三部制御器)(鐵道〃)
- (8) 今後の電車に關する研究(〃)
- (9) 演算子法公式集の作成(演算子専門委員會)
- (10) 變壓器運轉指針の作成(變壓器〃)
- (11) 點弧子の材料と製造方法の研究(點弧子〃)
- (12) 點弧子の特性と壽命の研究(〃)
- (13) 點弧子回路の研究(〃)
- (14) 珪素鋼板磁氣試驗裝置比較試驗(珪素鋼板特別委員會)
- (15) 珪素鋼帯高温焼鈍に關する研究(〃)
- (16) 珪素鋼の結晶に關する基礎的研究(〃)

關西支部研究委員會 關西支部に設置の「妨害電波研究委員會」電力網異常現象研究委員會」の本期間に於ける會合數は 33 回で前期 31 回に比し 2 回を増加した。調査中の事項は次の如くである。

- (1) 漏洩電波防止裝置の基準的方法
- (2) 漏洩電界強度の測定法基準
- (3) 雜音測定器に關する出力指示その他基礎的研究

電蝕防止の調査研究 電気通信學會日本電気協會, 水道協會, 日本ガス協會及び本會の五團體で設置した「電蝕防止研究委員會」は久敷休止の状態にあつたが, 再開の要望があり前期來準備を進めていたが 24 年 10 月から調査を開始した。再開について組織基礎として「鐵道電化協會」を加えた。本期間の會合數は 13 回。調査事項は次の如くである。

- (1) 電蝕防止操典の改訂及び文獻

資料の集覧

- (2) 電氣鐵道歸線設備の研究
(3) 地下埋設物に関する研究

11. 電氣知識普及

電氣技術普及會の本期間の會合数は34回で前期31回に比し3回を増加した。

新計器當選考案授賞 「新型積算電氣計器並に電力使用合理化に役立つ新計器」の懸賞應募案19件につき前期來審査中であつたが、下記12件に對し24年9月授賞した。(審査報告電學誌24年10冊に掲載)

- 1等 超過電流熱應動型積算電流計 新興電氣 水谷 欽一君
2等 回轉圓筒型積算電力計 ツダ電氣計器 津田善一郎君
3等 超過電流型積算時間計 三菱電機 門 頼雄君
同 小山 杉夫君

佳作 (9件)

電力使用合理化の策の編纂 前期來鋭意編纂を進めていたが、第一讀會を大部分終了した。不日出版の運びとなるが、電力使用合理化の決定版として多大なる寄與をもたらすものである。

12. 通信教育

24年4月通常總會で定款を改正し、通信教育を本會で行うことに決定したのであるが、その機關として6月通信教育會を設定した。つづいて編集委員會を設け、教材の編集を進めてきたが、原稿の審議検討に慎重を期し、委員會の會合回数40回を超えるような次第のため、豫定の10月開講を延期するに至つた。第1回講座は「送配電工学」で、「電氣學會大學講座」として4月に開講、つづいて電氣理論、電氣機械工学、發電工学、電氣鐵道工学、照明および電熱工学、電氣磁氣測定等を準備中である。これらは、いづれも修了期間6ヶ月を標準とするものである。

13. 日本學術會議關係

- (1) 24年4月、文部省科學研究費

配分審査委員を推薦した。(大西副會長)

(3) 5月、日本學士院會員候補者3名を電氣通信學會、照明學會、日本電波協會と連合して推薦した。

(3) 25年1月、文部省科學研究費配分審査委員候補者6名を推薦した

(4) 2月、日本學術會議會員選舉管理委員會委員として星會會長を推薦した。

(5) 3月、文部省科學研究費による電氣工学關係の研究報告書の調査方依頼がありこれを承諾した。

(6) 日本學術會議會員の改選が25年12月行われるので、有權者の豫備調査方依頼があり、目下調査中である。

(7) 日本學術會議の事業周知方の中越があつたので來る4月の連合大會に於て説明を行うこととした。

14. 委員の推薦

(1) 24年4月、日本工學會評議員増員につき阪本總務理事を選出した

(2) 9月、人事院特別試驗委員として阪本捷房君を推薦した。

(3) 労働省技能者養生専門委員として巽良知君、岩片秀雄君を推薦した。

15. 其 他

(1) 名譽員 Frank B. Jewett 博士が24年11月18日に逝去された

ので、弔詞を贈つた。

(2) かつて岩垂講演者として來邦された米國マサチューセツ工科大学名譽教授 D. Gald C. Jacson 氏が85才を迎えられたので、祝詞を贈つた。

(3) 四國支部長渡邊兼堆君が轉出されたので後任に弘田龜之助君が就任した。

(4) Japan Science Review の掲載論文として下記3編を選定した。林 邦雄一電刷子整流論(68巻, 718 號掲載)

鳳誠三郎一電氣接點の火花消去回路に就いて(721 號)

後藤以紀一論理數學方程式の繼電器回路網理論への應用(69巻726巻)

(5) 24年4月通常總會で決定した定款改正(本會の目的に通信教育を行うことの1項を加える)は10月に文部大臣の認可があつた。

(6) 役員改選の投票用紙を官製ハガキに改め、25年度役員の選舉から實施した。

(7) 朝日新聞科學獎勵金候補者1名を推薦した。(24年7月)

(8) 日本出版協會を退會した。(25年2月)

(9) 25年電氣デー開催に際し主催者に加入した。

役 員 改 選 報 告

會長星合正治、副會長大西定彦、北川一榮 總務理事巽良知、會計理事石塚晴美、編修理事關英男、法貴四郎、調査理事小川建男の諸君が24年4月通常總會を以て退任となるので改選の結果下記諸君が當選した。

會 長 丹羽保次郎(電機大)
副會長 石川 潔(東芝)
同 薄井 廉介(三菱電機)
總務理事 森田 清(東工大)
會計理事 田口 武夫(日立)
編修理事 實吉 純一(東工大)

同 澤井善三郎(東大)
調査理事 藤高 周平(同)
本選舉の投票總數は3,393票、投票率36.9%であつた。

東 京 支 部

支部長 駒形 作次(電試)
庶務幹事 石塚 喜雄(早大)
會計幹事 山村 昌(東大)
評議員 金岩芳郎(東芝)小柳美一(國鐵)篠原幹興(東芝)關英男(電波廳)富山順二(日發)鳥山四男(日立)鳳誠三郎(東大)法貴四

郎(電試)山本廣三郎(富士電機)
脇坂清一(關東配電)

關 西 支 部

支 部 長 岡部金治郎(阪 大)
庶務幹事 山村 豊(同)
會計幹事 九井 憲治(關西配電)
評 議 員 上島定雄(大阪通産局)
岡田喜義(電試)清野 武(京大)
吹田徳雄(阪大)濱崎章二郎(關
西配電)

九 州 支 部

支 部 長 熊澤 尙文(熊本大)
庶務幹事 田町 常夫(九 大)
會計幹事 吉浦 次郎(日 發)
評 議 員 木村五郎(八幡製鐵)田
中才右衛門(九配) 戸上信文(戸
上) 野田健三郎(九大)帆足萬次
郎(西鐵)

東 北 支 部

庶務幹事 若林 豊(東北配電)
會計幹事 佐藤長兵衛(日 發)
評 議 員 草刈澁(岩手大)新堀正
義(電通局)福島弘毅(東北大)

東 海 支 部

庶務幹事 上田 實(名 大)
會計幹事 西田 三好(日 發)
評 議 員 後藤利雄(日發)日野信
一(明電舎)藤田伊八郎(東芝)前
田一雄(中部配電) 村田義人(靜
大)

中 國 支 部

支 部 長 眞田 安夫(中國配電)
庶務幹事 井上 治郎(同)
會計幹事 森島 義男(日 發)
評 議 員 大平達也(廣鐵)木村一
男(中國配電)乘松次男(電通局)
森脇小祐(中國配電)渡部兼雄
(日發)渡邊真(廣島大)

北 海 道 支 部

庶務幹事 松本 正(北 大)
會計幹事 末廣 英二(日 發)
評 議 員 澤茂夫(室工大)佐野光
(日發)南二郎(長島電氣)

北 陸 支 部

支 部 長 高橋 茂(北陸配電)

庶務幹事 望月 忠(同)
會計幹事 石橋 謙造(金澤大)
評 議 員 小原源吉(日發)西岡敏
二(金澤大)森川宗一(北陸配電)

四 國 支 部

支 部 長 弘田龜之助(愛媛大)
庶務幹事 片岡 恒(同)
會計幹事 奥田 一郎(同)
評 議 員 池野英三(徳島大)上田鹿
次郎(四配高知支店)上原嘉一郎
(四配香川支店)蒲原理彦(日發)
千田眞治(四配徳島支店)野本尚
敬(愛媛大)藤本悟郎(四配)

第 38 回 通 常 總 會

昭和 25 年 4 月 28 日 午前 10 時半か
ら東大第一工學部講堂に開催，出席
正員 2556 名(中委任狀 2516 通)大
西副會長司會のもとに下記の件を執
行した。

- (1) 昭和 24 年度事務及事業報告
(2) 同決算報告(3 定款及規則改
正(4) 昭和 25 年度豫算(5) 淺野
賞，大同賞，電氣學術振興賞の贈
呈(6) 役員改選報告(7) 新會長の
挨拶

會 費 の 改 正

通常總會に於て會費及び入會金を下
記の如く改訂，25 年 4 月 1 日から實
施した。

	月額	半年分前納 (圓)	1 年分前納 (圓)
正 員 會 費	50	270	500
准 員 會 費	40	220	400
特 例 會 費	20	110	200
入會金	正員 150圓	准員 75圓	

表 彰

通常總會に於て下記の通り授賞し
た。

- 第 25 回 淺野博士獎學祝金 鈴木 重夫君
第 9 回 大同電力記念賞金 富山 順二君
第 6 回 電氣學術振興賞

進歩賞 熱應動双金屬體の應用に
よる柱上變壓器燒損防止裝置等の
完成 水谷 欽一君

改良賞 電車用電動機保護裝置
「直流大容量電力ヒューズ」の研究
福田 節雄君 廣瀬 健吾君
今井 一郎君

改良賞 配電損失並に電壓降下輕
減對策としての低壓進相蓄電器及
び配電技術の研究 宮 崎 貢君

論文賞 論文「軸對稱磁界型電子
顯微鏡の收差理論 金谷 光一君
文獻賞 著書「電氣磁氣本論」

後藤 以紀君

淺野祝金贈呈文 貴下は昭和四年
東京大學卒業後電氣試驗所において
照明工學の研究に従事，光變調の理
論を究め光線電話等の光學機械の進
歩に貢献し，特に電子顯微鏡の研究
に當り，最小分解能となる單極レン
ズの發明，醫，化學用として取扱容
易且つ試料の溫度破壊等の起らざる
小型電子顯微鏡の提唱，工作精度の
電子レンズ性能への影響，軸非對稱
性能收差の理論等を發表し，その製
作普及に貢献せる功績亦多大であ
る。依て賞金贈與規程第二條に依り
淺野博士獎學祝金を贈呈する

昭和二十五年四月二十八日
電氣學會々長 工學博士 星合正治
工學博士 鈴木重夫殿

大同電力賞金贈呈文 貴下は昭和
二十二年十月日本發送電株式會社電
力技術研究所開設するや電力科長
に就任，爾來二年有半本邦電力技術
の進歩改良に精進され，特に大規模
なる日本發送電株式會社電力設備を
利用し六十餘件に亘る各般の現場試
験を主宰し，諸困難を打開幾多の成
果を挙げ，本邦電力技術の質的向上
に寄與した功績は多大である。依て
賞金贈與規程第三條に依り大同電力
記念賞金を贈呈する

昭和二十五年四月二十八日
電氣學會々長 工學博士 星合正治
富山 順二 殿

昭和 24 年度決算報告

(1) 一般會計

科 目	收 入	科 目	支 出
會基預雜誌廣告雜特別總合	3,492,279.85 17,638.33 279,579.50 793,400.00 19,757.69 197,315.93 4,799,971.30	總務費 雜誌發行費 論文集足金 補賞 支部費 諸會費 合 計	752,937.28 3,611,036.62 15,638.40 9,459.00 397,400.00 13,500.00 4,799,971.30

(2) 專業維持員會費

科 目	收 入	科 目	支 出
繰越會費	178,000.73 941,332.50	總務費 電氣規格調查委員會費 次年度繰越金 合 計	350,796.00 262,000.00 304,188.00 202,349.23 1,119,333.23

(3) 電氣規格調查會費

科 目	收 入	科 目	支 出
電氣學會支出頒布預金工業補助合	262,000.00 414,100.00 3,063.67 165,000.00 844,163.67	總務費 調查費 規格購入費 調查準備金 合 計	149,955.00 359,224.00 186,800.00 148,184.67 844,163.67

(4) 論文集出版費

科 目	收 入	科 目	支 出
頒布廣告一線合	311,688.40 32,000.00 15,638.40 359,326.80	編修費 印刷費 配付費 雜費 合 計	53,940.00 281,524.00 12,205.80 11,657.00 359,326.80

(5) 調査委託費

科 目	收 入	科 目	支 出
繰越補助金附寄合	105,684.17 624,307.01 729,991.18	調査費 次年度繰越金 合 計	619,206.00 110,785.18 729,991.18

(6) 電氣技術普及會費

科 目	收 入	科 目	支 出
繰越金 寄附金 出版收入 預金利息 合 計	450,568.21 50,000.00 54,317.50 4,784.73 559,670.44	總務費 調査費 出版費 懸賞費 次年度繰越金 合 計	28,592.00 110,326.00 3,172.00 190,465.00 227,115.44 559,670.44

(7) 圖書出版費

科 目	收 入	科 目	支 出
圖書出版收入 名簿出版收入 合 計	462,843.80 207,827.00 670,670.80	圖書出版費 名簿出版費 事務費 雜特別積立金 合 計	110,422.00 358,501.00 150,000.00 9,343.00 42,404.80 670,670.80

(8) 年報出版費

科 目	收 入	科 目	支 出
頒布收入 次年度繰越金 損 合 計	24,842.00 29,000.12 53,842.12	編修費 印刷費 發送費 雜費 合 計	26,405.00 26,192.12 1,002.00 243.00 53,842.12

(9) 御下賜金

科 目	收 入	科 目	支 出
繰越金 利子 合 計	76.23 7.84 84.07	次年度繰越金 合 計	84.07 84.07

(10) 委託金

科 目	收 入	科 目	支 出
池田資金			
繰越金 利子 合 計	1,541.83 426.36 1,968.19	次年度繰越金 合 計	1,968.19 1,968.19
大井資金			
繰越金 利子 合 計	991.82 186.04 1,177.86	次年度繰越金 合 計	1,177.86 1,177.86
淺野資金			
利子 年度繰越金 損 合 計	922.48 77.52 1,000.00	祝金 合 計	1,000.00 1,000.00

(11) 寄 附 金

科 目	收 入	科 目	支 出
廣 部 資 金			
繰越金子	520.87	次年度繰越金	601.37
	80.50		
合 計	601.37	合 計	601.37

橋 本 資 金			
繰越金子	2,223.43	次年度繰越金	3,393.93
	1,170.50		
合 計	3,393.93	合 計	3,393.93

鳥 淵 資 金			
繰越金	442.47	次年度繰越金	442.47

岸 資 金			
繰越金	26.37	次年度繰越金	26.37

岩 垂 資 金			
繰越金子	173,819.79	研 究 費	20,000.00
	11,689.90	講 演 會 費	13,689.00
		次年度繰越金	151,820.69
合 計	185,509.69	合 計	185,509.69

大 同 電 力 資 金			
利 子	1,260.00	賞 金	1,000.00
		次年度繰越金	260.00
合 計	1,260.00	合 計	1,260.00

日 立 資 金			
繰越金	2,113.56	次年度繰越金	2,113.56

關 西 共 同 火 力 資 金			
繰越金	1,189.32	次年度繰越金	1,189.32

富 士 電 力 資 金			
繰越金	38.75	次年度繰越金	38.75

京 濱 電 力 資 金			
繰越金	65.04	次年度繰越金	65.04

(12) 通 信 教 育 會 計

科 目	收 入	科 目	支 出
入學金及學費	138,300.00	教科書出版費	253,870.00
寄附金	1,285,000.00	編 修 費	317,397.00
預金利息	6,128.99	運 營 費	53,391.20
假受金	280.00	周 知 費	28,830.00
雜 收 入	9,465.50	事 務 費	539,977.90
		次年度繰越金	245,708.39
合 計	1,439,174.49	合 計	1,439,174.49

(13) 貸 借 對 照 表

(昭和 25 年 3 月 31 日)

科 目	負債の部	科 目	資産の部
御下賜金	200.00	有價證券	415,183.38
基本財産	211,304.26	信託預金	633,080.24
委託金	20,417.64	定期預金	284.07
寄附金	837,109.80	銀行預金	1,021,852.65
繰越金	949,139.87	振替貯金	95,064.04
特別積立金	401,346.49	現金	90,624.79
調査準備金	261,952.88	備 品	6,757.40
職員退職給與金	101,036.89	假拂金	706,269.41
図書館勘定	8,500.39	次年度繰越金	29,077.64
東京支部勘定	22,490.10		
假受金	184,695.30		
合 計	2,998,193.62	合 計	2,998,193.62

第 24 回 連 合 大 會

終戦後最初の全国大會である第 24 回連合大會は、4 月 28, 29, 30 日東大第一工學部で開催された。(参加 909 名)

特別講演 28 日午後 1 時、工學部講堂

1. 米國の電力事情

日本發送電株式會社總務理事 森 壽五郎君

2. 米國の照明

關東配電株式會社調査部長 福田 勝治君

3. 米國の通信事情

電氣通信省業務局計畫部長 米澤 滋君
尙、大山次郎君から日本學術會議の事業概要について説明があつた。

一般講演 416 件で、その種類別は下記の如くである。**A. 基礎**…數學5. 電磁氣16. 回路13. 放電15. 測定理論9. 材料37. 化學2. **B. 電力**…送配電36. 送配電用機器9. ケーブル12. **C. 機器**…回轉機17. 變壓器3. 整流機器11. 特殊機器5. 繼電器類6. 計測器具9. **D. 照明**…照明14. **E. 通信**…通信一般22. 有線17. 無線25. 超高周波37. 電子管31. **F. 應用**…電鐵6. 電熱3. 電氣應用12. 應用計測12. 制御3. 高周波加熱21 合計 416

懇親會 29 日 午後 6 時から東大山上會議所で開催出席 80 名、尾本大會委員長の挨拶につづいて、丹羽、星合、古賀、別宮、松田、淺見、原田、上西、山本、田中、熊谷、薄井の諸君から夫々興味深いスピーチがあり、終りに近藤早一君の發聲で萬歳を三唱し會を閉じた。

講演要旨の出版 一般講演 416 件の講演要旨を印刷し合本及び分冊を刊行した。

昭和25年度豫算

(1) 一般會計

科 目	收 入	科 目	支 出
會費	4,634,000.00	總務費	1,064,600.00
本財産及子金	13,000.00	雜誌發行補給費	4,664,600.00
預金利息	1,608,000.00	足部費	110,000.00
廣告料	1,608,000.00	支部費	391,200.00
雜誌頒布收入	243,800.00	賞金費	70,000.00
雜誌特別積立金	18,500.00	大會費	20,000.00
雜項收入	100,000.00	諸會費	22,500.00
雜項收入	100,000.00	豫備費	274,400.00
合 計	6,617,300.00	合 計	6,617,300.00

(2) 事業維持委員會費

科 目	收 入	科 目	支 出
繰越金	202,349.23	總務費	289,200.00
會費	904,000.00	電氣規費	300,000.00
		技術委員會費	368,500.00
		豫備費	148,549.23
合 計	1,106,349.23	合 計	1,106,349.23

(3) 論文集出版費

科 目	收 入	科 目	支 出
頒布收入	352,800.00	編修費	77,800.00
廣告料	126,000.00	印刷費	468,000.00
一般會計	110,000.00	配布費	23,000.00
繰入金	110,000.00	雜費	10,000.00
		豫備費	10,000.00
合 計	588,800.00	合 計	588,800.00

(4) 通信教育會計

科 目	收 入	科 目	支 出
前年度繰越金	245,708.39	教科書出版費	9,336,000.00
入學金及學費	7,955,700.00	指導書出版費	743,400.00
圖書頒布收入	5,784,000.00	會報出版費	227,800.00
預金利息	15,000.00	編修費	700,000.00
		指導費	1,368,000.00
		運營費	212,000.00
		周知費	600,000.00
		事務費	2,833,000.00
		豫備費	980,208.39
合 計	17,000,408.39	合 計	17,000,408.39

新增刊圖書

書 目	價	円
電氣學會名簿 (B5-272頁) (會員特價)	200	25
電氣工學年報21年版 (B5-241頁)	250	25
最近の真空技術とその應用 (A5-184頁)	220	25
電蝕防止操典 (A5-221頁)	250	25
□ 電氣技術綜説		
1集・電氣物理 (B6-210頁)	110	20
2集・測定及電子装置 (B6-146頁)	80	15
3集・電氣機器 上卷 (B6-240頁)	210	20
同 下卷 (B6-205頁)	180	15
4集・送配電及電鐵 (B6-240頁)	240	25
5集・電氣通信 (B6-208頁)	108	15
6集・電氣材料 (B6-158頁)	150	15
7集・電燈・電熱・電氣應用 (B6-201頁)	180	20
□ 電氣知識普及資料		
4集・科學繪本お家の電氣(七色刷美本)	20	10
5集・感電の話 (B6-51頁)	20	10
7集・日本の再建は水力電氣の開發から (B6-29頁)	25	10
□ 電氣規格 (JEC)		
電氣機器一般 (86-1943)	45	10
誘導機 (37-1943)	55	10
ガラス製水銀整流管装置 (111-1945)	60	10
同期機 (114-1948)	50	10
衝擊電壓、衝擊電壓測定法、變壓器衝擊電壓試驗 (105, 107-1944, 110-1945)	120	15
鐵製水銀整流器 (63-1941)	90	15
坑氣防爆型電氣機器 (93-1944)	50	10
指示電氣計器 (119-1924)	75	10
計器用變成器 (118-1948)	45	10
增補改訂・標準電氣用語 (B6-26i頁)	220	25
電氣規格は以上の外多數出版あり、目錄贈呈 (郵券 10 圓添付請求あれ)		